

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和4年3月1日

事業所名 玉島児童発達支援センター

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	23	1		空間で活動を分けるため、プレイエリアに10人は狭いので、活動によって活動人数を調整している。
	2 職員の配置数は適切である	18	6		常時見守りが必要な児を支援する時足りないため、フリーの職員に手助けをしてもらっている。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	23	1	階段の手すりやドアなど、子どもの扱いやすいものとなっている。個別スペースを複数作り、各部屋での活動を決めておく事で、見通しを持ちにくい児にも活動内容がわかりやすいように工夫している。パーテーションの設置やスロープ、手すり等によって構造化、かつバリアフリー及び安全を確保している。視覚支援をしっかりと使い、児の特性に合わせて情報伝達の工夫をしている。	階段の上り降り等、全員での移動が難しい時は、グループに分けて移動している。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	24	0	毎日の掃除や定期的に行う細かい所の掃除などで、清潔になっている。消毒を行い、感染症対策に努めている。掃除をする項目を決め、適切な掃除が行われているか毎日チェックしている。児の特性や成長によって変えている。活動に合わせて、活動する部屋を替えている。	
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	23	1	療育後、1日の振り返りをクラスで行い、反省点や改善策を話し合っている。毎日ラインで連絡がある。クラス日誌への記述もできるだけ詳しくして共通理解を意識している。	
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	24	0		
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	24	0		
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	15	9		監査で指導を受けたので、来年度に向けて検討中である。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	24	0	月に一度テーマを決め担当職員が研修を行っている。また、内容によっては外部の講師をお願いしている。様々な分野の研修を行っている。	
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	24	0		
	11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	24	0	全体で同じ検査を行っている。	
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	23	1		
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	24	0	個別の支援計画を把握、常に意識し、集団・個別それぞれの児にあった支援を行う事ができるよう考えている。クラスで個々の計画をしっかりと共有し、適切な支援を行えるようにしている。	
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	24	0	クラスミーティングを行い立案をしている。毎週話し合い、児の状態に合わせて活動を決定している。	
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	24	0	同じ活動でも、やり方や展開を変えている。作業療法で学んだ事を活動に取り入れている。季節や行事、児の実態に合わせて考えるようにしている。	
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ合わせて児童発達支援計画を作成している	24	0	特性に合わせて活動時に環境設定を行い、個別・集団を意識している。	
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	24	0	前日と登園10分前には各クラスでミーティングを行い、1日の流れや支援方法を確認している。話しやすい雰囲気、ちょっと気になった事でも話し合い解決できている。細かい役割を決めている。週案を配置しておく、クラス日誌に書いておく等、打ち合わせ内容を提示しておくように心掛けている。	
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	23	1	クラスで話し合う事ができている。それぞれの視点からの意見があり、情報共有ができています。その日良かった事・悪かった事、保護者との会話等を共有し、次の支援につなげる様にしている。振り返り後には、必要な支援ツールの準備や1日の流れを見直し、迅速な対応に努めている。	降園時間によって職員全員で振り返りが難しい時は、活動中に気になる事を書いて職員全員で共有する。
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	24	0	1日の様子をメモに残す。うまくいった対応等の話をしている。クラス日誌に記入している。	
20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	24	0			

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	23	1		
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	22	2		
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	0	0		
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	0	0		
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	22	2	必要がある場合には行っている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	24	0	移行先の要望にこたえている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	20	4		コロナ禍で対面での研修は少なくなっているが、リモート等では研修の機会がある。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	5	19	コロナへの配慮から今は行っていない。 コロナの関係で現在は難しい。	状況が安定したら再開したい。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	16	8	コロナ禍なので難しい。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	24	0	連絡帳で毎日の活動について報告し合い、家庭での様子も知る事ができている。 お迎え時や連絡帳で様子を明確に伝えるよう努力している。 具体的な要件には、電話対応や専門分野の方からのアドバイスを取り入れた返答で丁寧な対応ができるように努めている。 気になる事があれば電話をしたり、送迎時に話すようにしたりしている。	
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	23	1		
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	24	0		
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	24	0		
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	24	0	職員間で共通理解しながら、助言・支援を行っている。 連絡帳の記載内容にしっかり目を通し、気になる事があれば声をかけるようにしている。また、児発管や他の先生にも相談し、助言や支援を行うようにしている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	23	1	コロナ禍で十分な支援はできていないが、文書等で支援を行っている。 コロナへの配慮から今はひかえている。	
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	24	0	適切に丁寧に対応している。 申し入れがあった時は、上司に相談、アドバイスをもらい、適切な対応をしている。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	24	0	行事後に、様子を保護者に知らせている。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	24	0	個人情報は鍵のかかるロッカーに保管し、厳重に管理している。	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	24	0	保護者にも伝わりやすいよう、実際に使っている物を見せながら説明している。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	9	15	コロナへの配慮から今は行っていない。 コロナ状況下では難しい。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	23	1	定期的に行う事で、子どもたちも動きを知る事ができている。職員間でもクラス内で声を掛け合う事ができている。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	24	0	月に1回、いろいろな災害を想定して避難訓練を行っている。重ねる毎に成果がある。定期的な訓練を行い、子どもたちにも視覚支援を用いた説明・実践を心掛け、防災への意識がもてるよう工夫している。	歩行に不安な児がいるため、避難時には個別対応をする。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	24	0	文書による服用依頼書をお願いし、服薬する場合は1回分の量を用意してもらうようにしている。お薬手帳も用意してもらう。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	24	0	アレルギーの検査をしてもらい結果を提出してもらう。食事提供する前に担任も確認している。食器を替えたり、付箋を貼ったりして、分かりやすく間違いのないように工夫している。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	23	1	朝礼などで報告し、再度起こらないようにしている。	けがをした時に朝礼で報告し、他のクラスの先生にも知ってもらう。全職員に周知徹底する。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	24	0	虐待の種類や外傷所見等、わかりやすくしてあり、早期発見の為に初期対応の必要性を徹底している。資料を読み合わせながら、日頃の行動を振り返ったり虐待について考えたりしている。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	24	0	研修での勉強の場を設けている。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。